

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 令和4年2月28日

事業所名 放課後等デイサービス きぼう

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			集中して宿題などに取り組めるようなスペースを設けている。	
	2	職員の配置数は適切である	100%			シフト表の中に利用者人数を記入し職員配置の確認を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	50%	25%		入り口には低い段差がある。現在車椅子を利用しているお子さんはいないが、今後いる場合は対応をしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	75%	25%		毎朝の朝礼時に一日の流れの計画を立てスタッフ間で共有をしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			一年に一度行い保護者より指摘があった場合は改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	75%	25%		ホームページに掲載し、掲載したことを保護者にお知らせしている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12.5%	50%	37.5%		現在は行っておりません。今後検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			少なくとも月1回は事業所内研修を行い社外研修に行った際は全員に内容を共有している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%		6ヶ月に一度アセスメントを行いその内容を支援会議で共有・話し合いを行い計画を立てている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	25%	75%		契約の際にアセスメントツールを使用しその子の状況を把握している。	職員の半数以上がアセスメントツールが分かっていなかったため、今後研修などで周知を行っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			月1で活動ミーティングを行いその月にあったプログラムの立案を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			季節に合った活動を取り入れたり曜日を変えたりして利用する児童が多様な活動に触れ合えるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	63%	37%		平日はSSTなどの活動を。長期休暇は体験活動が沢山出来るように設定している。	非常勤のスタッフにまで、把握が出来ていなかったため、今後は課題の詳細までを共有していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%		保護者へのモニタリングを行い、利用者の様子も見ながら計画を立てている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			活動や日によつての利用者の様子に合わせ職員の配置決めを行い支援にあたっている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%		送迎終了後、職員間で振り返りを行っている。	早く退勤する職員もいる為、全員での振り返りは難しいこともある。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			支援後に記録を記入し、支援会議等で議題に出し検証・改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			6ヶ月に一度モニタリングを行い放課後等デイサービス計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	63%	37%		基本活動を組み合わせ日々の支援を行っている。	非常勤の職員にガイドラインの読み込みを行っていなかったため、今後行っていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	87%	13%		担当者会議には児童発達支援管理責任者が毎回出席をしている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%			毎週の下校時刻のコピーをもらい把握をしている。時刻変更の場合は学校に確認を行う。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		50%	50%		医療的ケアが必要な利用者が現在はいない。今後いる場合は、検討をしていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	37%	50%	13%	新一年生の利用が始まった際、必要な時は以前の様子を聞くようにしている。	情報共有をした内容は、職員に共有しているが、連絡は毎回、児童発達支援管理責任者が行っているため情報共有をしていることを知らない職員もいたため、今後は伝えていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	50%	50%			現在、学校卒業後に障害福祉サービス事業所へ移行した利用者がいない。対象になる利用者がある場合は行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	38%	62%			助言や研修を受けたいとは思っていますが、現在出来ていない。今後検討していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		50%	50%		事業所前の公園で遊んでいる子ども達と時折交流がある場合もある。コロナが落ち着いた際には、検討していきます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	12%	63%	25%		現在出来ていません。今後検討していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	88%	12%		気になる言動がある場合は、すぐに保護者に連絡をし支援に繋がるようにしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	13%	75%	12%	ペアレントトレーニングを行ってはいませんが、最近の様子のお話を聞いたり相談を聞くなどの時間を設けている。	ペアレントトレーニングは行っていません。今後検討していきます。	
保	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			契約の際に全て行っている。変更があった場合はその都度保護者に連絡をし伝えている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			適宜面談を行い、保護者の困りなどの話を聞き、支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75%	12%	13%	保護者同士の交流の場として年に2～3回懇親会を行っている。	今年度はコロナ感染症拡大防止策として延期になり、1回のみ開催。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	88%	12%		事実関係を確認し迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	88%	12%		月1回おたよりを配布し活動やその他のお知らせを掲載。SNSでも活動の様子を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%			個人情報は鍵付きロッカーにて管理。SNSで発信する際は顔が分からないよう配慮している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	75%	13%	12%	意思表示が苦手なお子さんには気持ちを表すカードを用いて表現しやすくしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	66%	17%		コロナウィルス感染拡大防止のため、現在行っておりません。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	88%	12%			マニュアルを作成はしているが、保護者への周知が出来ていなかったため、入り口に掲載をします。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	88%	12%		年2回(2月・8月)避難訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	25%		研修会に参加をし、事業所内研修の際に内容を共有している。終礼時に毎回虐待がなかったかの確認を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%			重要事項説明書に掲載し契約の際に説明。放課後等デイサービス計画にも記載を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	34%	66%			現在、アレルギーがある利用者さんがいないが、いる場合は対応をします。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			ヒヤリハットがあった場合は、報告書を記入し回覧を回して共有している。事業所内研修の際にも毎回確認を行っている。	